

## 南ア月報

(2013年12月)

在南アフリカ日本国大使館

### 主な出来事

#### 【内政】

● 5日、マンデラ元大統領逝去。公式追悼式典に世界から多数のハイレベルが参列。我が国からは皇太子殿下と、福田元総理が特派大使として参列。

● 17～19日、南ア金属労組 NUMSA が特別会合を開催、ズマ大統領の即時辞任、COSATU の三者同盟からの離脱、2014年総選挙における NUMUSA の ANC 不支持等を決議。

● 19日、国民会議 (COPE) 他野党が、野党連合「民主主義共同体 (CD)」を結成。

#### 【外政】

● 6～7日、マシャバネ国際関係・協力大臣は、フランス・パリを訪問、アフリカの平和と安全保障のためのエリゼ・サミットに出席。

#### 【経済】

● 10月の貿易赤字は124億ランドとなった。輸入超過の傾向は、短期的に見ると今後も継続することが予想される。

● 南アエネルギー省は IRP (Integrated Resource Plan) の改訂版を発表し、新規原発建設計画は遅らせることが可能であると発表した。

● 2013年の上半期、460万人以上の外国人観光客が南アを訪れ、観光客数は前年の同期と比較して5.1%上昇した。

### 1. 内政

#### ●マンデラ元大統領逝去

5日深夜、ズマ大統領は南ア国营放送を通じて、12月5日20:50頃、民主国家・南アの初代大統領ネルソン・ロリシュラシュラ・マンデラ氏が、ヨハネスブルグの自宅で、家族に見守られ逝去したことを発表した。南ア政府は、マンデラ元大統領の国葬プログラムとして、8日を祈りと回想の日、10日、ソウェトFNBスタジアムにおける公式追悼式典、11日～13日、ユニオンビル・ディングにおける遺体の公開安置、15日東ケープ州クヌにおける埋葬という一連の国葬プログラムを発表、同期間を服喪期間とした。

公式追悼式典には、世界約100カ国や国際機関からハイレベルの参列があり、日本からは、皇太子殿下と、福田元総理が特派大使として参列した。遺体の公開安置には、各国からの要人に加え、南ア国民が長い列を作り、元大統領に最後の別れをつげた。遺体は14日に東ケープ州に移送され、15日の葬儀には、世界各国代表者、ANC関係者、家族など約4500名が参列した。

#### ●南ア金属労組 (NUMSA) が特別会合を開催

17～19日、南ア金属労組 (NUMSA) は、ボクスブルグにおいて特別会合を開催した。特別会合では、ズマ大統領の即時辞任、与党ANCの2014年総選挙キャンペーンの不支持、COSATUのANCとの三者同盟の離脱要請などを決議した他、COSATUの原則である一産業一労組の原則に反し、セクターを超えた組合を目指すこと等が決

議された。

#### ●野党連合「民主主義共同体（CD）」の結成

19日、国民議会（COPE）、アフリカキリスト教民主党（ACDP）、自由戦線（FF+）、統一キリスト教民主党（UCDP）は民主主義共同体（CD：the Collective for Democracy）を結成、合意文書に署名を終えた。CDは、腐敗撤廃、教育／訓練の優先などを推進していくことで同意している。現在もその他の野党との協力協議は継続しており、来年の総選挙には、種々の問題が露呈してきているANCの代替政党として得票率を伸ばすことを目指すとしている。

## 2. 外交

#### ●マシャバネ国際関係・協力大臣のフランス訪問

6－7日、マシャバネ国際関係・協力大臣は、アフリカの平和と安全保障のためのエリゼ・サミットに参加するため、パリを訪問した。同会合には、アフリカ諸国、フランス、国連、EU、AU等が参加し、アフリカの平和、安全保障、開発の諸課題について議論が行われた。

## 3. 経済

### <経済指標>

#### ●貿易

10月南アは輸入超過となり、ボツワナ、レソト、ナミビア及びスワジランド（BLNS）との貿易を統計データに含めるという変更を行ったにもかかわらず、貿易赤字が増加している。南ア歳入庁（SARS）によると、10月の貿易赤字は124億ランドとなり、9月の120億ランドよりも増加した。10月までの今年の累積貿易赤字は、761億ランドを記録した。9月から10月にかけて、輸出の増加と同時に輸入も増加したため、貿易赤字が拡大した。BLNS 諸国との貿易をデータに含むことによって、貿易収支が狭まることが期待されていた。BLNS との貿易データを除外した場合、10月の貿易赤字は210億まで拡大したであろう。ネドバンクのエコノミストは、輸入超過の傾向は、短期的に見ると今後も継続することが予想されると述べた。

#### ●国内支出

南ア準備銀行によると、2013年の消費者及び政府の支出における成長は2012年と比較し減速傾向となる見込みである。消費の冷え込みにより、第3四半期の国内支出の成長は1.9%となり、第2四半期の2.7%と比べても減速している。ネドバンクのエコノミストは、インフレ、労働ストライキ、与信へのアクセスの厳しさなどが消費者の消費抑制の要因となっていると分析している。

#### ●小売業

南ア統計局によると、10月の小売業は予想値の1.7%を下回り1.3%増となった。消費者が控えめな消費行動をとる傾向があるため、クリスマス時期の消費も冷え込む可能性がある。消費は衣類、靴、革製品などの消費者の手に届きやすい低価格な商品において顕著に見られ、家具、家電製品などにおける消費者の購入は控えめとなっている。今年の南ア人消費者の信頼はこの20年間で最低となり、消費者が変化のない収入額、無担保ローン増加の抑制、労働環境の暗い見通し、生活費の上昇などの圧力に直面していることが

わかる。

## <出来事>

### ●原子力計画—2025年まで検討延期の可能性

南アエネルギー省は IRP (Integrated Resource Plan) の改訂版を発表し、IRP において、電力需要が予想数値を下回っており、新規原発は2025年乃至さらに後まで必要とならないことから、新規原発建設計画は遅らせることが可能であると発表した。2030年のエネルギー需要は2010年に予想されていた最大61,200MWよりも6,600MW程度低くなることが予想される。仮に原発のコストが高すぎる場合は、水力発電やシェールガス等で電力需要を賄い、原発建設計画を廃止することも提起している。

### ●南アの腐敗認識指数

3日に発表された Transparency International の腐敗認識指数 (Corruption Perception Index) によると、2013年、南アは2012年の69位から3ランク下落し177カ国中72位 (スコア42/100) となった。ズマ氏が大統領に就任した2009年の55位から、毎年世界順位に占める南アの順位の下落が続いている。DA はズマ大統領就任後の公共部門の金融における管理の不行き届きが、南アの公共部門における腐敗認識を高めていると指摘した。2013年腐敗認識指数で南アフリカより高順位となったアフリカの国々はボツワナ (30位)、カーボヴェルデ (41位)、セイシェル (47位)、ルワンダ (49位)、モーリシャス (52位) 含む9カ国である。Transparency International のグローバル腐敗バロメーターによると、南ア人の約半数である47%がここ数年の間に賄賂を渡したことがあると回答した (世界平均は27%)。

### ●南アの観光業の振興

マルティナス南ア観光大臣は、南アを来訪する観光客は2013年の上半期、前年の同期と比較して5.1%上昇し、南ア経済に350億ランドの利益を生み出したと発表した。2013年上半期だけで460万人以上の外国人観光客が南アを訪れた。同大臣は、南アの経済成長及び雇用創出のためには観光業が重要である、観光客の増加は全地域において見られ、世界的な観光トレンドの平均値に沿って伸びていると述べた。昨年同期に比べ、ドイツからの観光客は13.8%、フランスからの観光客は10.8%、イタリアからの観光客は7.1%増加した。アジアからの観光客も昨年より増加しており、中国からの観光客は23.9%、インドからの観光客は11%増加した。

### ●省エネのための優遇税制措置の導入

マグバネエネルギー省次官は、2015年から実施される炭素税導入の影響緩和のための措置の一つとして、民間企業による省エネの取り組みに対し、優遇税制措置を導入する制度を発表した。モーデン財務省総課長は、省エネ効果がKwh相当で認定され、1kwh当たり45セントの法人税控除が与えられる、省エネ効果の認定は南ア国家エネルギー開発機構 (Senedi) が実施すると述べた。南ア政府は2015年までにエネルギー効率を12%改善するとしている。

### ●米・量的緩和の縮小の南アへの影響

18日の米連邦準備制度理事会 (FRB) が量的緩和の縮小を決定したことを受け、マーカス南ア準備銀行総裁は、FRBによる資産購入プログラムのペースの減速の開始は南アにとって短期的課題である、量的緩和の縮小が南ア経済にもたらす影響はまだ不明であると述べ

た。同氏は、特に市場への資本の流れの観点から新興国での景気刺激策の影響を見てきたが、それは低利率と低いインフレを生み出していた、今起こっていることはその逆であると述べた。FRBが債券購入における量的緩和の縮小をするかもしれないと発表した5月以降、ランドは13%下落した。

#### ●E-toll 開始後混乱相次ぐ

ハウテン高速道路課金システム（E-toll）が12月3日より開始された。自動車を運転する多くのハウテン市民がE-tollシステムの誤作動やトラブルに巻き込まれており、混乱が続いている。具体的には、実際に使用していない車の請求書が送られてきた、登録したクレジットカードの詳細が紛失した、入手したEタグが正常に機能しなかった、オンラインの誤作動によりEタグが届かないなどといったトラブル事例が多発している。実施機関であるSANRALは、苦情や意見がある場合はカスタマーセンターに直接申し出るよう呼びかけている。

#### 4. 広報・文化

##### ●日本映画上映(第10回)

8日、プレトリア大学ビジネススクール(GIBS)において、大使館と日本研究センターが共同で行う日本映画上映の第10回目が行われた。今回は、山崎貴監督の「ALWAYS 三丁目の夕日 '64」が上映された。次回は2月15日(土)に宮崎駿監督の「コクリコ坂から」の上映が予定されている。

#### 5. 警備・治安

##### ●12月中の交通死亡事故が多発

南ア交通管理局は、12月における交通事故死者数が記録的なものとなり、12月1日～22日の間で、約900人が犠牲になったと発表した。例年、12月は交通事故件数が増加傾向にあるが、今年12月は特に多く、州別にみるとハウテン州148件、クワズル・ナタール州138件、東ケープ州99件の順に交通死亡事故が発生している。また、事故原因の殆どが、スピード違反、無謀な追越し運転、飲酒運転、無免許運転、過積載運転であると指摘している。

南ア国家警察は、毎年クリスマスの時期(年末)になると、南ア国内では強盗や窃盗の被害が多発するため、市内のパトロール・検問の強化を行い、犯罪者や交通違反者の取り締まりを強化し、国民にも各自の防犯対策を実施するよう呼びかけている。